資料①

こども・子育て分野における生成AI 利用等に係る調査研究
第４回検討委員会

第３回検討委員会までの振り返り

令和６年12月25日

アビームコンサルティング株式会社

ABeam Consulting®
Build Beyond As One.

目次

1. 本事業の概要
2. 本事業の成果物
3. スケジュール
4. 第３回検討委員会での意見交換の論点
5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

1. 本事業の概要
1.1. 本事業の位置づけ（再掲）

第１回検討委員会 再掲資料

- 子育て中の方の利便性向上や、子育て関連事業者・地方自治体等の事務負担軽減を図るため、こども家庭庁では**「こども政策DXの実現に向けた実証事業」**に取り組んでいます。
- 本事業では、保育・子育て現場でのDX推進の一環として、**生成AIを対象とした実証・調査**を実施します。生成AIは今後も更なる技術発展が予想され、DX推進の鍵になると考えています。**こども・子育て分野における効果的な活用事例を模索し、全国の自治体・施設に展開する**ことを目的として取り組んでまいります。

こども政策ＤＸの実現に向けた実証事業

長官官房　総務課（※２③のみ成育局 保育政策課）

令和５年度補正予算：10億円

1 事業の目的

○ 地方自治体や子育て関連事業者等が行政手続や事務処理等のデジタル化・ICT化や生成AIの利用等を効果的に進められるよう、こども政策DXに係るモデル事業等を短期集中で実施し、効果や課題、留意点等をまとめた報告書やガイドライン等を作成し、横展開を図る。また、特に手続負担や業務負担が大きいとされる保育現場でのＤＸについて、デジタル行財政改革の積極的な推進の観点から、取組の具体化に向けた調査研究を実施する。これらによりこどもや子育て中の方々の利便性向上と子育て関連事業者・地方自治体等の事務負担軽減を図り、「こどもまんなか社会」の実現を目指す。

2 事業の概要・スキーム

【事業内容】

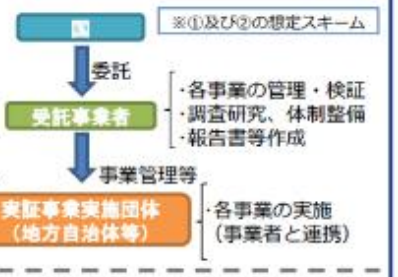
①**こども政策DXモデル事業の実施**
- 地方自治体や保育施設等において、行政手続や事務処理等のDXの取組を実証的に行う。
- 出生窓口、保育実務、母子保健等の幅広い領域で実施。
- 有識者検討会を開催しながら各事業の効果や課題、留意点等を整理・検証し、これらをまとめた報告書等を作成し、横展開することで全国の地方自治体等のこども政策DXの取組を推進。
- 実証事業等を踏まえ国で行うべきシステム開発等に係るDX戦略・人材育成、仕様書等検討、セキュリティ対策等もあわせて行う。

②**こども・子育て分野における生成AI利用に係る調査研究**
- 地方自治体や保育施設等において、生成AIを利用した取組を実証的に行う。
- 保育、母子保健、安全対策、伴走型相談支援等の幅広い業務で実施。
- 有識者検討会を開催しながら各事業の効果や課題、留意点等を整理・検証し、生成AI利用のガイドライン等を作成することで全国の地方自治体等の適切な生成AI利用を進める。

※[生成AI利用の想定場面例] 住民からの子育て相談や問合せ対応、広報文等作成・マニュアル等改定
保育時における画像生成AI等利用、保育施設等における研修資料作成、園周辺の安全対策案の策定等

③**保育現場でのＤＸの推進に向けた調査研究事業**
- 有識者や関係者（地方自治体、保育施設、ベンダー等）の参画を得て、以下の調査研究を行う。

(1)地方自治体において行う給付事務・監査事務の実態把握
(2)保育施設等において行う保育業務・管理運営業務の実態把握
(3) (1) (2)の事務の標準化・デジタル化の検討及びそのために必要な共通データベースの在り方の検討
（データベースの構築主体、各種ICTツールとのデータ連携を可能とする標準規格、ユーザーインターフェースの仕様）等



3 実施主体等

国（民間事業者等へ委託）

*参照：②こども政策ＤＸの実現に向けた実証事業 (cfa.go.jp)

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

1. 本事業の概要
1.2. 本事業の取組内容（再掲）

第１回検討委員会 再掲資料

- 本事業では、**こども・子育て分野を中心に生成AIを利活用した事例の調査**や、**地方公共団体や保育施設担当者等の生成AIへのニーズを調査**するとともに、**生成AIを利用した取組を実証的に行う**ことで、各ステークホルダーを巻き込み、**次年度以降の社会実装に向けた土台作りを行う**ことを目的としています。
- そして、実証等を通じて、**こども・子育て分野において公共団体等が生成AI等を利用する際に留意すべき論点やその効果等を整理し、ガイドラインや標準仕様として取りまとめを行ってまいります。**

	(1) 本事業の運営管理	(2) 生成AIの事例調査	(3) 生成AI を利用した取組の実証	(4) 検討委員会の設置・運営	(5) 成果報告書の作成
業務内容	• 業務実施計画書を作成 • 業務実施計画書に基づき、業務を推進し、進捗管理・課題管理・リスク管理、ステークホルダー管理等の各種プロジェクトマネジメントを実施する。	• **生成AI の動向調査** こども・子育て分野を中心に生成AIを利活用した事例を調査し、考えられるユースケース及び論点を整理する。 • **生成AI に関するニーズ調査** こども・子育て分野に関連する地方公共団体の業務及び保育施設等の業務において生成AI の利用に向けた課題・ニーズを調査し取りまとめ、考察・論点を整理する。	• **実証の推進** 地方公共団体や保育施設等において、生成AI を利用した取組を実証的に行い、論点、課題、効果等を整理する。 ① 実証事業参画団体の公募と決定 ② 実証事業に必要な環境の整備 ③ 生成AI 利用のユースケースの検討 ④ 実証実施 ⑤ 実証結果の取りまとめ ⑥ 報告会の開催	• **生成AI利用ガイドラインの作成** 事例調査・実証の結果を踏まえ、こども・子育て分野における生成AIの適切な利用に向けたガイドラインを弊社にて作成（※概要版も含め作成） • **調達仕様書サンプル作成** 地方公共団体が生成AIを構築する際の調達仕様書サンプルを作成 • **検討委員会の設置・運営** 委員7名の検討委員会を立ち上げ、委員会運営等の各種ロジを実施 検討委員会での議論を踏まえて実証事業の実施及びガイドラインの作成を行う。	• **報告書作成** （２）～（４）の内容の取組や成果等をまとめた「成果報告書」を作成
成果（アウトプット）	• 業務実施計画書 • 各種プロジェクト管理資料	• 事例調査結果	• 公募要領、公募審査結果 • 実証環境（プログラム、設計書等） • 生成AI利活用ユースケース • 実証計画書 • 実証結果 • 報告会向け資料	• 生成AI利活用ガイドライン（本編、概要版） • 地方公共団体が生成AIを構築する際の調達仕様書サンプル • 検討委員会向け資料 • 検討委員会議事録 • 委員からの助言・提言一覧	• 報告書（本編、概要版）

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

2. 本事業の成果物

■ 本実証では、他組織から発出されているガイドライン等の文書に加えて、（2）生成AIの事例調査や（3）生成AIを利用した取組の実証の結果をインプットに、最終的な成果物として**生成AI利活用ガイドラインの作成**を目指します。

本事業の成果物及び位置づけ

（2）生成AIの事例調査

インプット

- ■ 地方公共団体・保育施設へのアンケート・ヒアリングの実施
- ■ 生成AI利活用を取り巻く実態についての文献調査　等

アウトプット

生成AIの事例調査結果

- ✓ 生成AIに関する最新の技術動向調査の結果
- ✓ 生成AIに関する事例調査の結果

アウトプット

生成AIに関するこども子育て現場のニーズ調査結果

- ✓ 全国の地方公共団体および保育施設に対して実施したアンケート調査結果
- ✓ アンケート調査の回答データの分析結果

（3）生成AIを利用した取組の実証

インプット

- ■ 実証団体からの月次定例報告、中間・最終報告
- ■ 実証環境から取得したモニタリング指標　等

アウトプット

実証環境（設計書、プログラム等）

- ✓ 第三者でも機能や処理フローを理解できるような、処理シーケンス図や画面イメージなど

※広く公開・利用されることも想定し、機密性の高い情報や著作権に関わる情報は削除

アウトプット

実証結果報告

- ✓ 実証の詳細とその分析、利用者からの意見
- ✓ ユースケースごとに課題を抽出し、生成AIができること・できないことの整理
- ✓ 課題に対する施策や対応の優先順位

（4）検討委員会での協議

インプット

- ■ 他組織から発出されているガイドライン等の文書
- ■ **左記の事例調査・実証実験の結果報告**　等

メインアウトプット

生成AI利活用ガイドライン（本体）

次年度以降に各団体が**生成AIを導入するための指針**となるよう、**事例・導入論**を取りまとめる

- ✓ 「**基礎編**」では、主に**こども・子育てに関わる「自治体職員」**に向けて、**生成AI導入に必要な知識**を提示する
- ✓ 「**実践編**」では、**自治体・保育施設の「現場職員」**に向けて、**生成AI導入のユースケース集**を提示する
- ✓ 既出文書を参考に、**こども・子育て分野固有の示唆を事例調査・実証結果から抽出**し、取りまとめる

アウトプット（生成AI利活用ガイドライン別添）

別添①調達仕様書サンプル　（公開用）

生成AI導入時の活用を想定し、仕様書作成等の負担軽減に向けた参考資料として作成する

- ✓ デジタルガバメント標準ガイドラインに準拠した構成
- ✓ 地方公共団体等が汎用的に活用しやすい内容
- ✓ 本事業の実証結果やガイドラインに準じて作成

別添②生成AIの事例調査結果（公開用）

作成済みのアウトプットをもとに公開版資料として整え、ガイドライン本体の別添（副本）とする

別添③実証結果報告（公開用）

作成済みのアウトプットをもとに公開版資料として整え、ガイドライン本体の別添（副本）とする

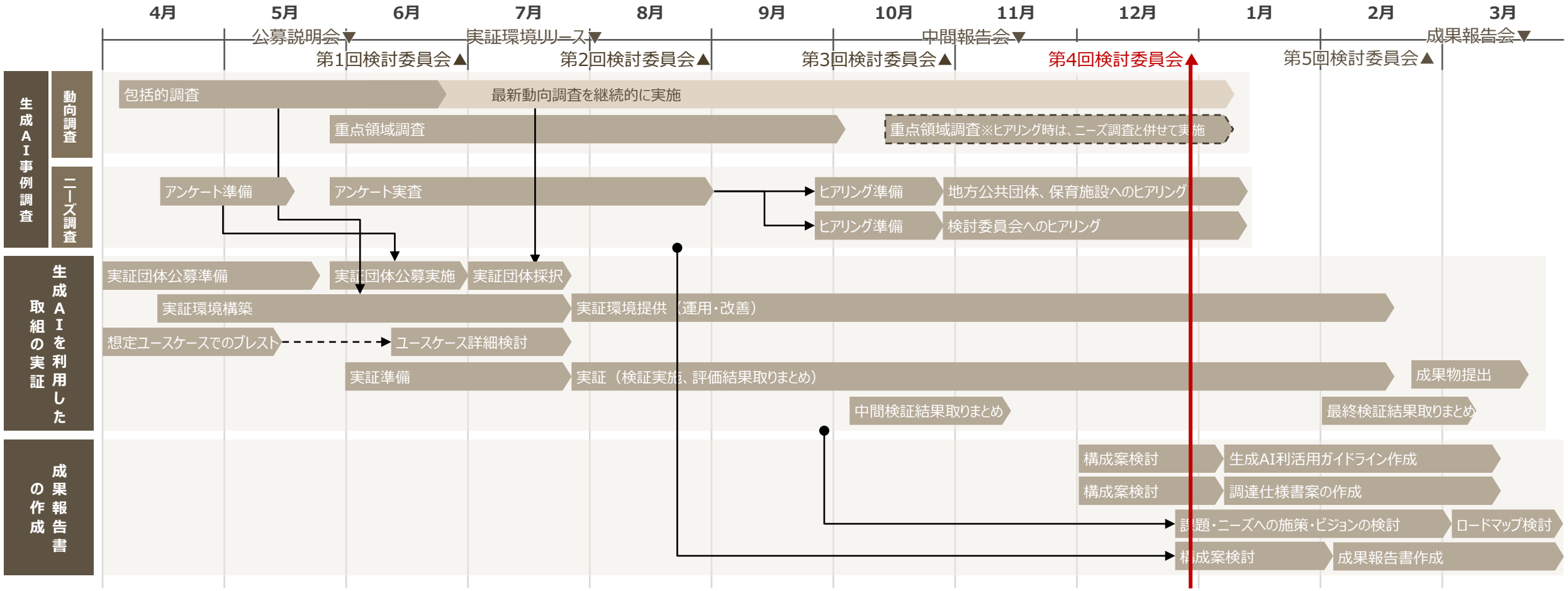
confidential　©2024 ABeam Consulting Ltd.

3. スケジュール
3.1. 本事業の全体スケジュール概観

第２回検討委員会 再掲資料

- 事例調査については、地方公共団体、保育施設、有識者へのヒアリングを実施し、結果の取りまとめを実施中です。
- 実証については、リスク対応等を注視しつつ、各実証団体にて実証を継続中です。
- 成果報告書の作成については、生成AI利活用ガイドライン、調達仕様書サンプルの構成案を具体化し、作成に着手しております。

本事業の全体スケジュール



confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

3. スケジュール
3.2. 検討委員会における協議スケジュール

- 全5回の検討委員会で予定している報告内容をまとめております。
- 本日は、ニーズ調査における**ヒアリング実施状況の報告**、**実証事業における各実証団体の進捗報告**、**生成AI利活用ガイドラインの構成案の共有**を行います。
- 以下スケジュールはあくまでも現時点での想定であり、今後変更が発生することをご了承ください。

検討会における協議スケジュール

	第1回（6月）	第2回（8月）	第3回（10月）	**第4回（12月）【本日】**	第5回（2月）
本事業の 全体管理・計画	本事業の目的・背景の説明	本事業成果物・ スケジュールの追加説明			今年度事業結果の報告
動向調査 ・包括的調査 ・重点領域調査	包括的調査結果の報告		重点領域調査の報告 動向調査結果（案）の共有		動向調査結果の報告 （書面共有）
ニーズ調査 ・アンケート ・ヒアリング	アンケート計画の共有		アンケート結果の報告 ヒアリング計画の共有	ヒアリング進捗の共有	ヒアリング結果の報告 （書面共有）
実証事業	公募団体選定状況の共有	採択結果の共有	各実証団体について進捗報告（随時）		結果報告作成方針の 共有
生成AI利活用 ガイドライン	ガイドラインの位置づけ・章立て案に関する共有（※実証結果により逐次更新して共有）				ガイドライン案の提示

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

3. スケジュール
3.3. 検討委員会における協議論点

- 全5回の検討委員会で委員の皆様に議論いただく内容をまとめております。
- 本日は、**実証結果の取りまとめ方針へのご意見、ガイドラインの作成イメージへのご助言**をいただきたく存じます。
- 以下スケジュールはあくまでも現時点での想定であり、今後変更が発生することをご了承ください。

協議いただきたい論点

	第1回（6月）	第2回（8月）	第3回（10月）	**第4回（12月）【本日】**	第5回（2月）
本事業の 全体管理・計画	✓ 本事業の進め方やスコープに関するご意見	✓ 各成果物の位置づけと内容に関するご意見			✓ 本事業の成果のラップアップ ✓ 次年度申し送り事項の整理
動向調査 ・包括的調査 ・重点領域調査	✓ 今後の事例調査の進め方についてのご意見				
ニーズ調査 ・アンケート ・ヒアリング	✓ アンケート計画へのご助言		✓ ヒアリング項目へのご助言		
実証事業	✓ 提出されたユースケースについてのご助言 ✓ 実証事業の進め方に関するご助言	✓ 実証の進め方に関するご意見 ✓ 採択団体およびユースケース実証に向けたご助言	✓ 実証上の課題へのご助言	✓ **実証結果の取りまとめ方針へのご意見** ✓ **実証進捗に対するご意見** ✓ **実証上の課題へのご助言**	✓ 実証上の課題へのご助言 ✓ 実証結果の取りまとめ方針へのご意見 ✓ 次年度申し送り事項の整理
生成AI利活用 ガイドライン	✓ ガイドラインの位置づけや記載事項に関するご助言	✓ ガイドラインの章立ての網羅性および妥当性へのご助言	✓ ガイドライン章立ての網羅性および妥当性へのご助言	✓ **ガイドラインの作成イメージに対するご助言**	✓ ガイドライン案へのご助言 ✓ 次年度申し送り事項の整理

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

4. 第３回検討委員会での意見交換の論点

- 令和６年10月28日(月)に開催された第3回検討委員会では、下記の議題を取り扱いました。
- 特に「**生成AI利活用ガイドライン**」、「**事例調査**」について、委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。
- いただいた主なご意見とその対応方針について、次頁以降でご提示いたします。

第３回検討委員会の議題とその概要

No.	議題	概要
1	第2回検討委員会までの振り返り	• 第2回までの説明内容の概要 • 委員意見の要旨および対応方針
2	実証事業の実施状況報告	• 実証事業の全体進捗の報告 • 各団体の取組、課題、リスクの共有
3	生成AI利活用ガイドライン（案）のご説明および委員協議	• ガイドライン（案）の章立て、記載イメージの共有 • 記載項目に関する委員による意見交換
4	事例調査の実施状況報告	• ニーズ調査の実施状況の報告 • ヒアリング調査の準備状況の報告 • ヒアリング方針に関する委員による意見交換

ご意見をいただいた主な論点

議題	論点
生成AI利活用ガイドライン	① **読み手を意識した情報の粒度・書きぶり・構成** ② **保育施設と自治体の連携** ③ **ガイドラインの免責事項** ④ **こども・子育て分野でのAI利活用の利点の示し方** ⑤ **導入を消極化させないリスクの記載** ⑥ **リスクに記載すべき具体的内容** ⑦ **サービス選定にあたっての必要情報**
事例調査	⑧ **ニーズ調査ヒアリングの進め方・確認事項** ⑨ **動向調査ヒアリングの確認事項**

▶▶ 次頁から説明

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.1. 論点①：読み手を意識した粒度・書きぶり・構成

- 論点①「**読み手を意識した情報の粒度・書きぶり・構成**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- 読み手である**現場職員（特に自治体職員）**を想定し、**本編の記載はシンプルで易しい内容・表現**とし、**詳細な情報は別添とする**方針です。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点①：読み手を意識した情報の粒度・書きぶり・構成

委員意見の要約

- 読み手を明確に想定し、知識レベルや忙しさを考慮したわかりやすい記載にすることを優先すべき。
- 専門的な記載では現場職員の理解が限定される。**生成AIのメリット・リスクについて伝わりやすい記載方法、具体的な事例を踏まえて紹介する等の工夫**を検討すべきである。
- 関連プロジェクトや他省庁のガイドラインといった細かい情報は、難しい印象があり情報量も多くなるため、**参考情報として付録のような形式**にする方がよいのではないか。
- （2.1.5.生成AIの注意点）生成AIの一般的なリスクのうち、**こども・子育て分野での関連が薄いものについては、ガイドライン全体の情報量を削減するためにも記載の程度を適切に調整したほうがよい**のではないか。
- ユースケースや実践例が分かりやすくスライド形式でまとまっている実践編から読む人が多いことを想定した構成とすべき。例えば、**実践編のスライド資料はわかりやすさを重視し、基礎編（Word形式を想定）に詳細な内容を記載する方法**はどうか。

ガイドライン本編は、基礎編で基本知識を、実践編で活用事例を平易な表現でまとめ、詳細情報は別添として分冊化する。

具体的な取組

基礎編はこども・子育てに関わる自治体職員、実践編は**自治体・保育施設の現場職員**を読み手として改めて整理し、下記のとおり情報粒度を調整する。

A) ガイドライン**本編と別添で分け**、**詳細で専門的な記載は別添側で掲載**する。

B) 調査から得られた示唆のうち、**こども・子育て分野に関連する記載に絞って掲載**し、**専門的な表現を避け**、**読みやすい構成になるよう再整理**する。

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.2. 論点②：保育施設と自治体の連携

- 論点②「**保育施設と自治体の連携**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- 自治体主導での生成AIの導入を前提として、**保育施設の作業負担や全体コストの改善及び最適化を重視した記載内容**を検討します。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点②：保育施設と自治体の連携

委員意見の要約

- （2.1.3.こども・子育て分野での活用可能性）公立施設での導入・維持は**首長部局が支援し、保育施設の負担が大きくならないように配慮**する必要がある。
- （2.2.1.生成AI導入までの流れ）生成AI導入時には、**施設ごとではなく首長部局がまとめて実施したほうがコストは下がる**と思われる。「事業者の選定」の際、導入のタイミングについては自治体全体ですり合わせて実施するとよい。
- （2.2.3.生成AIの構成および利用サービスの検討）**組織全体の最適化の観点**から、利用する課単位ではなく、**自治体組織全体での導入検討の視点**を盛り込んでもよい。
- （2.2.4.法令・ポリシー等への対応事項）**セキュリティポリシー等の文書作成は保育施設にとって負担が大きい**ため、首長部局と連携し、重複部分は二重作業にならないよう注意しながら、**保育施設の作業負担を軽減するように自治体側の支援を促す記載**にするのはどうか。
- （2.2.4.法令・ポリシー等への対応事項）神戸市で作成した「神戸市生成AI利用ガイドライン」と「プロンプト事例集」を書きぶりの参考とするとよいのではないか。
- **生成AIの管轄部署の整理**はガイドラインに記載してもよいと考えている。**導入部署と運用・管理部署が異なるケース**は多いと考える。

自治体側で推奨される取組や保育現場との協働事項を盛り込み、自治体・保育施設の全体効用の改善や負担削減を促す記載とする。

具体的な取組

A) 主に**①導入時に係る助言**（管轄部署、製品選定等）、**②コストに係る助言**、**③運用に係る助言**（特にセキュリティ等のルール遵守確認）、の3点について、**自治体が取るべきアクション**を中心に記載し、**特に保育施設に対してどのような支援・協力をすべきか**を記載する。（※自治体主体となる取組が多いことを考慮）

B) その他、ご指摘いただかなかった項目についても、**保育施設との協働事項がある場合は追記**する。
ただし、（A）同様にあくまでも自治体側からの働きかけを中心に、**実証結果から取得できる情報を中心に記載を検討**することとする。

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.3. 論点③：ガイドラインの免責事項

- 論点③「**ガイドラインの免責事項**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- ガイドラインの免責事項について、内容の過剰さではなく、表現方法の課題としてご指摘をいただいたものと理解しています。
  そこで、**各記載項目の目的を改めて整理し、利用者への伝達内容がより明確になるよう、構成と表現方法の見直しを検討**します。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点③：ガイドラインの免責事項

委員意見の要約

- 免責事項が多いと確認が難しく、現場で活用されない懸念がある。**細かく記載する必要があるかは検討すべき**である。
- 利用者に**本ガイドラインの性質・限界に留意したうえで使用してもらうための記載**という観点で検討するとよい。
- **現場職員が最低限守るべき内容**を分かりやすく示すことが重要と考える。

ガイドラインに掲載が必要な情報は削らず、各記載についての位置づけを明確に整理し、構成・表現を見直す。

具体的な取組

ガイドラインの免責事項の記載目的・読み手を整理し、下記のとおり記載場所を整理する。

A) 全体的に、記載については職員向けに**平易な表現**に修正する。併せて、記載内容は**必要十分かつコンパクトな整理**を心掛け、こども家庭庁様とも調整の上、委員にもご確認いただく。

B) 「**ガイドラインの文書的性格（法的解釈への注釈、文書の拘束力、等）**」は「**はじめに**」で留意事項として取りまとめる。

C) 「**導入時の注意事項（最新情報の参照推奨、専門的判断に係る留意事項　等）**」は「**基礎編**」で留意事項として取りまとめる。
そのうち、**保育施設職員にも読んでほしい内容である場合には実践編**に盛り込む。

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.4. 論点④：こども・子育て分野でのAI利活用の利点の示し方

- 論点④「**こども・子育て分野でのAI利活用の利点の示し方**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- こども・子育て分野での現状及び業務課題を踏まえ、**生成AIの有用性を明確に示せるよう**、ガイドラインの構成を組み立てます。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点④：こども・子育て分野でのAI利活用の利点の示し方

委員意見の要約

- 「職員や保育士の業務支援」について記載する際、**現場の人手不足**や学校教員が事務的な校務も実施しており**負担**が生じているといった現状も記載するとよい。
- 生成AIは、**知識がない人でもある程度は活用できる**ということも長所として記載するとよい。
- 「2.1.2.生成AIが得意とする領域」に記載の長所が、**現状はアナログな方法でこども一人一人と向き合っているこども子育て分野にとって、有用であり業務効率化につながる**ということを示してほしい。

「2.1.2.生成AIが得意とする領域」と「2.1.3.こども・子育て分野での活用可能性」を統合し、生成AIの長所と、こども・子育ての現場における具体例を紐づけて提示する。

具体的な取組

A) 生成AIの長所とこども・子育て分野での活用可能性に係る**項目を統合**する。

B) 生成AIの長所を、こども・子育て分野における**具体的な利活用事例と結び付けて記載**する。

＜例＞

- 長所：定型の問合せ以外でも対応できる、過去の問合せ等から学習した結果も活用できる（LLMの長所）
- 事例：こども・子育てに関する相談・情報検索ができる生成AI搭載のチャットボット

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.5. 論点⑤：導入を消極化させないリスクの記載

- 論点⑤「**導入を消極化させないリスクの記載**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- 読み手に対しリスクへの懸念を過大に与えないよう、**メリットとの記載の比重の調整**や、**リスクへの対策を重点的に記載する**等を検討いたします。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点⑤：導入を消極化させないリスクの記載

委員意見の要約

- リスクについての明記は必要であるが**、まずは生成AIを利用してみるという割り切りも必要**である。リスクの懸念により生成AIの使用を断念するのではなく、ある程度正しい情報が得られるならば使用してみる、必要に応じて修正するという使い方をすればよい旨を記載してはどうか。
- 自治体にとっては、生成AIの注意点が多く書かれていると導入に消極的になってしまうため、**リスクへの対策も記載すべき**である。特に生成AIの活用が進んでいない領域では、リスクよりも、メリットやリスクへの対策を重点的に伝えるべきと考える。
- 「2.1.5.生成AIの注意点」の前に、「2.2.2.生成AIの導入範囲の検討」の内容である**推奨例と非推奨例の記載があった方がわかりやすい**のではないか。

メリットとの記載の比重の調整や、リスクへの対策を重点的に記載する。

具体的な取組

A) 読み手の心情に配慮し、**生成AIの利点と活用事例を中心に解説**し、**リスクや留意点は必要最小限の記載**にとどめる。

B) 生成AIの注意点については、**①リスク、②非推奨とされる具体的な利用例、③その改善策（または推奨事例）を提示する**方針で記載を検討する。

＜例＞

- ①知的財産権の侵害、②生成AIに出力させたイラストをそのまま広報物に利用する、③利用前にWeb検索等を用いて、類似イラストが流通していないか確認する
- ①誤情報の出力・拡散、②生成AI搭載チャットボットの利用前提として、誤情報や古い情報である可能性、専門的な見解の不足等が周知されていない、③利用者に誤情報の可能性や情報の確実性の担保の仕方を利用前に周知する

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.6. 論点⑥：リスクに記載すべき具体的内容

- 論点⑥「**リスクに記載すべき具体的内容**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- ご意見いただいた具体的なリスク関連の内容について、**理解を促すために記載粒度・内容を再整理**いたします。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点⑥：リスクに記載すべき具体的内容

委員意見の要約

- 一般市民向けのチャットボット関連の事項は丁寧に記載すべきである。チャットボットの返答結果を直接一般市民が目にする場合はリスクが大きくなるなど、**チャットボットのリスクの状況は、活用場面や活用者により異なる**ことも示せるとよい。
- 生成AIは**情報検索などの正解がある内容に関するタスクを得意**とするものの、**相談の聞き役などの正解がない内容に関するタスクはリスクが高い。**後者のようなユースケースを外部向けのサービスで利用する場合にはハルシネーションについて細心の注意を払う必要がある。
- 生成AIの誤情報対策等を完璧にすることは難しいため、**生成AI利用に対するリテラシーの向上など、利用者側の認識を変えることも重要**と考えている。
- **こどもの保護とプライバシー保護は必ずしも同義ではない**という事実を記載すべき。

リスクと留意事項は、専門用語を避けて平易な表現とし、具体的な失敗事例を用いて説明し、現場で必要な対策を漏れなく示す。

具体的な取組

A) 「2.1.5. 生成AIの注意点」の記載は、**論点⑤のとおり記載を修正**することで、具体的な失敗事例とその改善案を取りまとめる。
また、「2.1.6. こども・子育て分野における特有の課題」の記載も、**論点④を参考に見直す**方針とする。

B) リスクの**タイトルや説明はより平易な記載**とする。（例：情報セキュリティ→不要な個人情報の入力とその漏洩）

C) リスクの具体例は**そのリスクを重く採用すべき事例とそうでない事例がある場合、どちらも掲載することで判断の参考としてもらう。**
なお、あくまでもインプットとしての記載に留め、現段階でも解決方針が確定していない論点については、**実証等での対応策等を示しながら、検討の方向性を示すに留める。**

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.7. 論点⑦：サービス選定にあたっての必要情報

- 論点⑦「**サービス選定にあたっての必要情報**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- 実証における事例として**具体的な情報を記載**し、記載可否については**実証団体・協力事業者と協議**する方針とします。
- また、調達仕様書のサンプルを作成することで、仕様書のひな型に関する意見への対応を行うことを検討しております。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点⑦：サービス選定にあたっての必要情報

委員意見の要約

- **サービスの持続性、提供企業の規模に留意**して製品を選定する必要がある旨は記載すべきである。
- 現場でセキュリティやサービスの持続性を検証することは難しく、具体的な製品名が分からないと導入しにくいと感じてしまう。
  特定の製品をガイドラインで推奨することは難しいため、**事例ごとに利用していたサービスを明記**する方法が考えられる。
- 自治体での調達時に作成する**仕様書のひな型**があると望ましい。提供を求める生成AIの機能に対し、仕様書としてもれなく記載すべき点が示されるとよい。

実証事業で利用した製品情報等は、事例として掲載することを前提に、実証団体・協力事業者との協議の上で記載する。

具体的な取組

A) **実証で利用したサービス名や構成図は参考として例示する。**可能な範囲で**選定理由等の背景も付記**する。
ただし、**詳細な情報は別添（副本②実証結果報告（公開用））で示すため、ガイドライン本体には全ては記載しない。**

B) 調達仕様書のサンプルを本事業のアウトプットで作成するため、必要な機能の調達の仕方を盛り込めないか今後検討する。

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.8. 論点⑧：ニーズ調査ヒアリングの進め方・確認事項

- 論点⑧「**ニーズ調査ヒアリングの進め方・確認事項**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- ヒアリング対象者が、生成AIの知識が不足していることを前提に、生成AIの基礎知識と先行事例を共有しながら、各団体の現状課題からAI活用の可能性やニーズを探るヒアリングを行う。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点⑧：ニーズ調査ヒアリングの進め方・確認事項

委員意見の要約

- 生成AIの知識がない団体へは**会話形式でヒアリングを行う**ことで意見を引き出しやすくなると考える。まずは**現場での課題を聞く**ほうがよいのではないか。
- 「生成AIの利活用方法がわからない」と回答している団体に対しては、**わからない点（生成AIの使い方、ルール策定方法など）をヒアリング**し、整理してほしい。
- 全国的にみると、アンケート結果よりもこども・子育て関連施設でのICT化は進んでいないように感じている。**現場では生成AIについて理解が薄い**現状を認識し、生成AIとは何かという前提から説明してもらう必要がある。

ヒアリング対象者の生成AIに係る知見の有無などを考慮して質問方法を工夫することで、現状や課題の深堀を行う。

具体的な取組

各団体の状況に応じて質問項目や方法、進め方をカスタマイズすることで、**より現状やニーズの詳細を引き出す**。

＜例＞

- 段階的な説明：現状や業務課題の把握から始めつつ、生成AIに係る基本知識を確認しながら、徐々に生成AIの話題に進める
- 専門用語を避けた質問：「ハルシネーション→AIが間違った情報を作り出してしまうこと」、「プロンプトの工夫による効率化→AIへの指示の出し方の工夫」など

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

5. 第３回検討委員会でいただいたご意見と対応方針
5.9. 論点⑨：動向調査ヒアリングの確認事項

- 論点⑨「**動向調査ヒアリングの確認事項**」について下記のとおりご意見をいただきました。
- 既に生成AIの利活用が進んでいる団体に対してのヒアリング時には、**生成AI導入時のステークホルダー**について確認観点に追加します。

委員意見（抜粋）及び今後の対応（案）

論点⑨：動向調査ヒアリングの確認事項

委員意見の要約

- 生成AI導入に係るステークホルダーへの説明についての観点があってもよいのではないか。
  例えば、生成AIにはリスクが伴うことを保護者や関係者にどのように説明し、合意を得たのかをヒアリングすべき。
- 生成AI の導入には生成AI導入のきっかけとなるキーマンの存在があると考えている。
  ヒアリングの際にはキーマンの存在について確認したり、職員のプライベートにおける生成AIの利用状況を確認したりするのもよい。

ステークホルダー（特に保護者）への説明手法や、合意形成プロセスについてヒアリング観点に追加する。

具体的な取組

各団体の状況に応じて、下記の質問項目について深掘りし、より詳細な導入プロセスをヒアリングする。

＜例＞

- ステークホルダー（特に保護者）への説明手法：説明のタイミングと方法、説明資料の内容、質問や懸念への対応方法など
- 合意形成プロセス：合意を得るうえで説得力のあった点、懸念や反対意見への対応
- キーマンの存否：生成AIの導入の契機となった職員の存否、職員個人の生成AI利用状況など

confidential ©2024 ABeam Consulting Ltd.

アビーム、ABeam及びそのロゴは、アビームコンサルティング株式会社の日本その他の国における登録商標です。
本文に記載されている会社名及び製品名は各社の商号、商標又は登録商標です。 ©2024 ABeam Consulting Ltd.

ABeam Consulting®

Build Beyond As One.